

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 8 日現在

機関番号：32404

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24652130

研究課題名(和文) 教室談話に見られるポライトネス - 日英教室談話の比較分析から

研究課題名(英文) Politeness in classroom-Comparison between JSL and EFL classrooms

研究代表者

山下 早代子 (YAMASHITA, Sayoko)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：90220334

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円、(間接経費) 270,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、Brown & Levinson(1987/田中監訳, 2011)のポライトネス理論をベースに、外国人学習者を対象とした日本語教育と日本人英語学習者を対象とした英語教育の教室内コミュニケーションを分析し、ポライトネスの視点からその共通点(普遍性)と相違点を検証することを目的とした。具体的な課題は、日本語授業および英語授業の録画データから、ポライトネス理論の要であるポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスに焦点を当て、相互作用による共同構築の形としての教室談話の特徴はなにか、日英両教室談話に違いがあるかを分析し、B&L理論のポライトネスの普遍性を検証した。

研究成果の概要(英文)： This study compares discourse of JSL and EFL classrooms in terms of teacher student interaction, particularly in the light of Brown and Levinson's politeness theory (1987). Using the notion of "face" (positive face and negative face) in the theory, similarities and differences in the two classroom types are discussed. The findings are; 1) all kinds of positive politeness strategies except one (strategy 12) were used in both classrooms, 2) the same types of negative politeness strategies (strategies 3, 8, 9, and 10) were avoided in both classrooms, and 3) the mixture of both positive and negative politeness strategies was recognized in a sentence or discourse in both JSL and EFL classrooms. The reasons of the above findings were discussed. With some idiosyncratic differences of JSL and EFL classrooms, it can be said that politeness theory is universal, and can be used to analyze an institutional discourse such as classrooms.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：教室談話 ポライトネス JSL EFL 日英対照研究 フェイス ポライトネス・ストラテジー ティチャー・トーク

1. 研究開始当初の背景

学術的背景として、1) 教室談話研究の動向、2) ポライトネス理論を使った研究動向、3) 応募者のこれまでの研究成果と本研究着想に至った経緯の順に述べる。

1) 教室談話研究の動向 第二言語・外国語教育の教室談話研究は、第一言語の教室談話研究の影響を受けながら、夥しい数の研究が行われてきた (Mehan, 1979; Sinclair 他, 1975 等)。特に初期の研究は、教師主導の教室形態に着目した、教室の相互作用の構造モデル (三項構造) IRF (教師の問いかけ - 学習者の答え - 教師の評価) (Mehan, 1979) の枠組みを使っての、教師と学習者の相互作用を分析する形がとられることが多かった。しかし近年、ビデオ等のデータ収集法の進歩に伴い会話分析や民族誌的手法によって、教室談話研究はその学習過程を教師と学習者だけでなく、学習者と学習者、さらに教師も含めた授業参加者全員の相互作用による共同構築の形として捉えなおし、教室参加者による活発な教室活動をより詳細に明らかにしている (Markee & Kasper, 2004; Seedhouse, 2004 等)。本研究はそのような流れを受けて教室談話を分析した。

2) ポライトネス理論 ポライトネス研究では、Brown & Levinson (1987/田中監訳, 2011) がよく知られており、近年は特に語用論、社会言語学、談話分析などの分野で注目を浴びている。日本語の敬語体系で代表される「丁寧さ」とは異なる観点で、「人のフェイスに配慮した円滑な人間関係の確立と維持のための行動」とされる。その研究は発話行為とフェイスを扱った研究 (伊藤, 2002; 権, 2008; 李, 2008 等) から談話を扱った研究 (大橋, 2008; 銅直, 2001 等) に広がりを見せている。本研究では、教室談話に見られるポライトネスに焦点を当てた。

3) 応募者のこれまでの研究成果と本研究

着想に至った経緯 研究代表者 (山下早代子) は科研基盤研究(B)(代表村岡英裕, H16-19) で日本語教室談話の録画データを半年間にわたり多量に収集し、まとめた (山下, 2009)。また、Brown & Levinson (1987) の翻訳者の一人として翻訳 (田中監訳, 2011-研究社) に関わり、その理論に精通している。これらの知見と蓄積データを使って本研究を実施した。

2. 研究の目的

本研究は、Brown & Levinson (1987/田中監訳, 2011) のポライトネス理論 (後述) をベースに、外国人学習者を対象とした日本語教育と日本人英語学習者を対象とした英語教育の教室内コミュニケーションを分析し、ポライトネスの視点からその共通点 (普遍性) と相違点を検証することを目的とした。具体的な課題は、日本語授業および英語授業のデータから、ポライトネス理論の要であるポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスに焦点を当て、相互作用による共同構築の形としての教室談話 (教師と学生のインターアクション、学生と学生のインターアクション) の特徴はなにか、日英両教室談話に違いがあるか、を分析し、B&L 理論のポライトネスの普遍性を検証することである。

3. 研究の方法

教室談話に見られるポライトネスを日英教室談話の両方からのデータをもとに比較分析した。初年度は海外での最新の研究動向を探り、先行研究を整理し、理論的基盤を強固なものにした。日本語教育現場の談話データは半年間にわたって収集したデータ (60 時間分) をすでに所有していた。英語教室談話データに関しては新たに収集した。収集後、分析に向けて一部の文字おこし、およびデータ入力を行った。

二年目は、実際に収集したデータ、外

国人学習者を対象とした大学日本語教育 (JSL) の教室談話録画データと 日本人英語学習者を対象とした大学英語教育 (EFL) の教室談話録画データを詳細に分析し、ポライトネスの視点からその共通点 (普遍性) と相違点を検証した。それぞれの録画データから、ポライトネス理論の中心であるポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとネガティブ・ポライトネス・ストラテジーに焦点を当て、相互作用による共同構築の形としての教室談話の特徴を明らかにした。

4 . 研究成果

Brown & Levinson(1987)のポライトネス理論が日英教室談話においても普遍性があることが明らかになった。B&L ポライトネス理論の普遍性は様々な形で検証が行われているが、教室談話の中でそれを検証することは海外でも未だ行われておらず、これを初めて明らかにした意義と重要性は大きい。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. 山下早代子 (2013)「ティーチャー・トークに見られるスタイル・シフト 文末に見られる敬体と常体」『応用言語学研究』第 15 号、157-176。(査読無)
2. 山下早代子 (2014)「教室談話に見られるポライトネス 日英教室談話の比較」『応用言語学研究』第 16 号、103-115。(査読無)

[学会発表](計 6 件)

1. 山下早代子「ポライトネスと言語教育」ベトナム、フエ大学 (外国語学部日本語科) (2012 年 6 月 8 日)
2. Yamashita, S. “ Politeness and

Language Learning ” ベトナム、フエ大学(外国語学部英語科) (2012 年 6 月 9-10 日)

3. Yamashita, S. Using shadowing for teaching speaking in JSL classrooms. JALT PanSIG 2012, JSL SIG Forum, 広島大学(2012 年 6 月 16 日)
4. Yamashita, S. Comparing JSL and EFL classroom discourse using CA. Paper presented at the 39th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition, Kobe Convention Center, Portopia. (October 27th, 2013).
5. Yamashita, S. Comparison between JSL and EFL classroom discourse using politeness theory. Paper presented at JALT Tokyo & JSL-SIG meeting at Sophia University, Tokyo. (January 27th, 2014).
6. Yamashita, S. Politeness as observed in Language Classrooms. Paper presented at Linguistics Seminar at Graduate School of Applied Linguistics, University of Greenwich, U.K. (February 5, 2014).

[図書](計 0 件)

[産業財産権]
出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者
山下 早代子 (YAMASHITA, Sayoko)

明海大学・外国語学部・教授

研究者番号：90220334

(2) 研究分担者
()

研究者番号：

(3) 連携研究者
()

研究者番号：